

第6回 道の駅「来夢とごうち」再整備基本計画策定検討委員会
記録

■日時・場所

日時： 令和5年3月1日（水） 10：00～11：45

場所： 安芸太田町役場本庁 東館2階 大集会室

■次第

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 議題
 - (1) 調査等の報告について
 - (2) 再整備基本計画（案）について
 - (3) 今後の予定について
4. 閉会

■資料

- 資料1 : 公募型サウンディング調査 報告書
資料2 : 道の駅の再整備に係る公民連携の在り方・手法の検討
資料3 : 道の駅来夢とごうち再整備基本計画（案）

■会議風景



■参加者

* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属・役職	出席
委員長	中村 隆行	広島経済大学経営学部スポーツ経営学科 准教授	○
委員	末國 浩二	安芸太田町商工会 事務局長 (代理出席)	○
委員	山田 知子	比治山大学 現代文化学部マスコミュニケーション学科 教授	○(WEB)
委員	中本 正廣	安芸太田町議会 議長	○
委員	久方 正夫	広島市農業協同組合戸河内支店 支店長	○
委員	栗栖 修司	地域商社あきおおた 事業本部長	○
委員	河本 穂津雄	安芸太田町農業委員会 会長	○
委員	沖段 琢磨	太田川産直市 (代理出席)	○
委員	佐々木 治郎	安芸太田町自治振興会連絡協議会 会長	○
委員	佐々木 富明	上殿連合自治会 会長	○
委員	波佐本 栄二	道の駅周辺出店者事業者協議会 代表	○
委員	大庭 由弥	子育て世代 代表	○
オブザーバー	藤原 康史	国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 副所長	○
オブザーバー	森浦 章治	国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 調査設計課長	○
オブザーバー	神田 昌吾	広島県西部建設事務所安芸太田支所 技術次長	○
オブザーバー	上垣内 茂	広島県西部建設事務所安芸太田支所 主査	○
オブザーバー	森田 朋憲	広島市農業協同組合総合企画室 副部長	○
事務局	橋本 博明	安芸太田町 町長	○
事務局	小野 直敏	安芸太田町 副町長	○
事務局	木本 英哲	安芸太田町 参事	○
事務局	菅田 裕二	安芸太田町産業観光課 課長	○
事務局	渡海 滋	安芸太田町産業観光課 係長	○
事務局	岩見 圭子	安芸太田町産業観光課 主査	○
事務局	佐々木 晃	安芸太田町産業観光課 主任主事	○
事務局	二見 重幸	安芸太田町企画課 課長	○
事務局	栗栖 香奈子	安芸太田町会計課 課長補佐	○(WEB)
事務局	栗栖 剛	安芸太田町総務課危機管理 室長	○
コンサル	八木 周吾	ランドブレイン株式会社広島事務所 所長	○
コンサル	田中 元清	ランドブレイン株式会社東京本社 中四国担当部長	○
コンサル	鈴木 将光	ランドブレイン株式会社福岡事務所 所長補佐	○
コンサル	水嶋 啓	株式会社長大まちづくり事業部 PPP 推進部 主任技師	○
コンサル	上田 航平	株式会社長大まちづくり事業部 PPP 推進部 チーフ	○
コンサル	平尾 菜有	株式会社長大まちづくり事業部 PPP 推進部	○

■記録

1. 開会

2. 町長挨拶

3. 議事

(1) 調査等の報告について

資料訂正

資料2 P3 表 収入の分類による事業形態 独立採算型と混合型の図が逆になっている。

資料2 P10 表内 PPP 導入によるコスト削減効果 [誤] 5.8% [正] 5.6%

－ 事務局より説明（記録省略） －

波佐本委員	私たちチャレンジショップとして考えているのが、コンセプト組みはとてもよいと思っています。最終的にはDBでもPFIでもDBOでも行うことはよいです。しかし、一番の問題は家賃がネックになっているという話をしています。この計画については非常によいと思っておりますが、最終的にどこが音頭をとって、最終的に民間事業者任せただけでは、私たちは困ります。最終的には、やはり町の建物であるため、道の駅の運営にも引き続き町が関与してほしいのが現状です。
事務局	家賃の話、テナント料の話だと思います。現時点でいくらになるかという明確なことはお答えできませんが、もちろん、今後、民間事業者を公募するにあたり、調整となります。そのような部分も踏まえて、既存の事業者と意見交換を行いながら、検討を進めていきたいと考えています。
大庭委員	子育て世代として、小さな子どもが使えるような遊具があり、あとは美味しいものがあれば、少し遠くても、我々は子どもの笑顔を見たいために行きます。そのため、まずは美味しいもの、あとは遊具もあることが大切です。あと難しい部分があったりするのかもしれませんが、絵本図書館の話などもあったらよいと思いますのでもう少し検討したらよいと思います。
事務局	現状のわくわくランド、かなりお客様に来てもらっており、なくてはならない施設だと思っています。それに加えて、再整備後の子育て施設をどのように整備するのかは課題です。今の事業コンセプトで、「おいしい・わくわくを届ける道の駅」とありますが、ここについては、来年度民間事業者具体的な内容の提案を受けていきますが、その公募要件として、情報を伝えたいと思っています。ターゲットについては、やはり道の駅として持続していくことについて、どうかたちが理想で、収益が確保でき、継続していくことが大事ですし、子どもが楽しんで、家族が滞在できる環境が必要です。そのような部分を民間事業者聞きながら考えていきます。
栗栖委員	道の駅が古い施設にもなってきていて、なかなかニーズに合っていないということもありますが、整理されているように、拠点性という部分はかなり高いと思いますし、来訪者もそれを求めて来ている現状があります。その中で、今回の民間活力の導入も、当然話題として必要だと思っています。道の駅ですので、地域の稼ぐ力などとよく言われていますが、それでもエンジンの機能は、一番大きいと思います。

地域商社もここを目指していきたいと思っているため、地域のためにいろいろ活用してもらうことがベストだと私たちは思っています。それは、地域住民の日常的な利用と来訪者へのサービス提供というバランスの面もあると思います。地域住民のための収益性が低いものが多くなるというよりは、外貨を増やして、地域で消費してもらうことが、観光の大きな根本だと思います。その部分を今回の整備の中で、ある程度バランスをとっていくことが必要だと思いますので、目的をもう少し明確化していかないといけないというのが私の印象です。

事務局

目的の明確化の話だと思います。地域商社のあり方にも関わってきます。民間との公民連携ということで、民間事業者が入ってきて、関わってもらう中で、地域の方をターゲットとするか、それとも町外の方をターゲットにするかという、大きなかじ取りの方向性があると考えています。これは山田委員からも、かねてから指摘をいただいています。また、現状、町の施策として、「生涯活躍のまち」という構想の中で、道の駅とは別に位置づけをして、地域の拠点の形成に向けて取り組んでいます。そのような部分も踏まえて、道の駅の整備としては、もちろん町外の方、町民が交わることが重要です。町外の方に町に来てもらい、町内の事業者が潤っていただきたい。地域の産業、観光のエンジンとなるという部分が、新しい道の駅の考え方としては十分な考え方だと考えています。その中で、地域の拠点との連携も見据えて、同時進行で動く施設だと考えています。

佐々木(治)委員

今後の運営については、地域商社に入ってもらい運営していくということですが、地域のいろいろなニーズがあり、そういうものに対応できるような意味では、地域商社が運営に携わる形がいいのかなと思います。生産者の高齢化が進むなど、いろいろな問題が出てきますが、それに対応できるような道の駅、そして運営も考え続けていかないと、よいものはできないのではないかという感想を持ちました。

事務局

ご指摘してもらった部分は、後ほど改めて説明させていただきます。今の資料1、資料2については、あくまで前回からの進捗について報告したものです。これを踏まえて、後ほど説明する資料3の基本計画、こちらにコンセプトから事業計画、機能に落とし込みを行っています。

(2) 再整備基本計画(案)について

資料訂正

資料3 P4 ■サービス提供の新旧イメージ比較 図のタイトル [誤]【再生整備】 [正]【再整備後】

－ 事務局より説明(記録省略) －

山田委員

質問ですが、資料3の4ページにサービス提供の新旧イメージ比較が新しい図で出ていました。前回の委員会ですなぐというキーワードが、非常に言葉はきれいですが、どこにどうつながるのか、誰と誰がつながるのかのイメージが湧きませんと伝えたいと思います。この現行と再整備後の2つの比較については、現行はすでに私も何度も聞いており、皆さんも地元のため、よく知っていると思いますし、イメージが湧きやすいと思います。レストランがあり、チャレンジショップで様々な食を食べることができ、特産品も店の中に飾ってあり売っています。情報もいろいろパン

フレットが置いてあります。ただ、単発で利用者に提供されているという状況はイメージできません。再整備後は、訪れるだけで食・特産品・情報をタイムリーに取得しやすく、かつ他の要素が連動し、関連する町内観光資源への誘導がスムーズに行われ、さらに滞在時間が増加し、リピーターが増えて消費額まで増加するという期待まで書いてありますが、新しく導入される機能は、あまり変わっていないように思います。再整備後はタイムリーに取得しやすく、他の要素に連動しやすく、移動がスムーズにというのは、整備後にこうなるからこうなるというイメージを教えてください。それから、感想ですが、今回サウンディング調査を行われて、どのような意見がありましたか。再整備計画の理念で、公表される時点で指摘のあった、「ターゲットが明確ではない」、「どんな特徴・目的を持った道の駅としたいのか、ストレートで分かりやすいコンセプトを示してほしい」、「各機能について、必須施設か必須でない施設かを明確に提示し、町の実現してほしいことを明確にしてほしい。」、「リニューアル感をどう出すのか」といった意見があったと思います。この計画の中に、よく見るとターゲットが書いていません。あえて書いていないのかどうかはわかりませんが、非常に表現としては足りない部分、比喩的な表現でまともっているため、わかりにくさというものが、ずっとつきまとっていたと思います。ターゲットが決まらずわかりにくいということは、今後、記者の方から「今度新しくリニューアルされるにあたって、今と違ってどういう風な道の駅ができるのですか。」と言われた時に、一言でどのように答えるのかということだと思います。建物が新しくなり、配置も変わるため、わくわく感や楽しみ感、リニューアル感を出せると思いますが、その後、観光客や地元の方たちが応援したくなるような道の駅につながっていくことができるかということは、もう少し深掘りした検討が必要だと思います。国土交通省の道の駅の会議でも、地域センター型なのか、ゲートウェイ型なのか、あるいは混合型なのか、全国に道の駅がたくさんあるなかで、どのような姿を目指しているのかという部分が明確にならないと難しいという感想を持ちました。最後、これから大いなる期待を持って応援するという意味で、少し辛辣な感想を言いました。

事 務 局

1つ目の資料3の4ページのサービス提供の新旧運営の比較についてです。再整備後に、タイムリーに食・特産品・情報を取得しやすく、どのようにそれぞれの要素が連動して、最終的に観光資源へ誘導がスムーズに行われるのかという整備のイメージがどういうものなのかという質問です。これについては、ハード・ソフトの両面があると思っています。まずハードについては、現在国道があり、建屋や機能が分散している部分、これを同じ敷地内に一体的に機能を集約します。これは、移動の障壁が解消されるというイメージで捉えています。そのため、道の駅に来られた時に、いろいろな特産品・情報・農産物等について、手間をかけずに見てもらえる、このような部分が特徴だと思います。あわせて、ソフト面です。情報提供するにしても、どのように商品を魅せていくのか、特産品・食の情報を見せていくのか、このようなことは、なかなか行政的な考え方に限界があるため、これについては、民間事業者の提案をいただいて、魅力につながる提案を受けながら、ソフト・ハード面で最終的に食と情報を軸にしながら、観光資源へ誘導するようなイメージで考

えています。

山田委員

施設の配置によって、目に入る情報は変わってくるため、施設の再配置による効果というものは確かにあると思います。ただ、それがリピーターにつながるか、町や消費額の増加につながるかということは、よくわかりません。ソフトの面で地域の方々と、地域の特産品や食や情報を、今のかたちではいけないというあり方ではなくて、新しい道の駅ではこの連動の仕方をどのように工夫するのかという部分が足りないと思います。現状の来夢とごうち自体が不便だというマイナスイメージがあるため、それが一体な配置になれば、便利になったと思ってもらえると思いますが、それでは通常の道の駅と同じような便利さになっただけであるため、もっと他の道の駅にない魅せ方が本格的に見えないと難しいと感じていました。

事務局

おっしゃるように魅力化につながる部分だと思います。いろいろな意見を踏まえながら、最終的な部分を考えていきたいと考えています。それからターゲットについて話していただきました。サウンディング調査を行う中で、そのような意見があるのは事実のため、改めてどのような方を対象にするのか考えたいと思います。現時点では、大きなくくりとしてゲートウェイ型の道の駅を考えています。ゲートウェイ型の道の駅として、町外の方、どのような方を対象にするのか、いろいろな部分で想定を膨らませながら、絞り込みを行っていきたいと考えています。

山田委員

地域を忘れるなという意見はもっともで、ゲートウェイ型になっていますが、平日はおそらく地元の方であふれる道の駅になってほしいと思うため、検討をよろしくをお願いします。

中本委員

計画はよいと思いますが、資料3の21ページを見てもいただければわかりますが、事業者ヒアリングから事業手法選定まで3ヶ月、実施方針の公表が3ヶ月、事業者公募・選定についても、これだけの期間が必要なのかと思います。また、設計・許可手続きが15か月で1年となり、こんなにかかるのかと思います。もう少し前倒しで進めていくことが必要だと思います。また、町のコンセプトはどういうものなのかが疑問です。稼ぐとなっていますが、稼ぐという言葉が適切なかが気になります。町は何を目指して進んでいるのかということ、たたき出していかなければいけないと思います。そして、多目的スペースも組み込んだ方がよいと思います。会議室や避難場所、そして屋内で子どもが遊べるスペース、集会所のように考えるなど、いろいろな利用方法があると思います。また、イベントなどもできるようなかたちでもよいと思います。そして、稼ぐという中では、テナントなどが当然入っていますが、これだけ店舗が入ることができるかと心配な部分があります。そのため、この中に何を取り込んでいけるのかということも、早く考えていかないといけないと思います。そして、農産物に関しても、できるだけ早くそのような立ち上げを行わないと、生産者の高齢化が進んでいるので、出荷できないということになることも懸念しています。

事務局

まずスケジュールの、来年度の公募スケジュールで意見をもらいました。果たして、公募までに、これだけの期間が一体いるのかということですが、資料を整理して公募するという話であれば、すぐにできる話だとは思いますが、これは引き続き

段階的にサウンディング調査を実施することを考えています。民間事業者とこのような実施方針で出すという段階で、まずは民間事業者にとっても大きなメリットのあるかたちができているかどうかという部分のヒアリングを行いながら、公募を一度に行うのではなく、段階的にサウンディング調査を行いながら考えています。当然前倒しについては引き続き検討したいと考えています。そして、稼ぐという部分のコンセプトのあり方について提案してもらいました。ストレートな表現になってしまっているのかもしれませんが、いわゆる町の地域経済を発展させることにより、今の人口減少・高齢化の問題に対応していき、いずれ皆さまのための起爆剤となるということを言葉に思いを込めました。言葉の表現の仕方については、改めて検討します。続きまして、多目的スペースの話です。今、他の道の駅でも同様だと思いますが、1つの用途に限定しないほうが、いろいろな機能で活用してもらえenと思います。道の駅三矢の里あきたかたにおいても、会議室とフードコートが一体になっているような使い方もあるため、多目的スペースという考え方に基づいて、いろいろな可能性を検討していきたいと思います。そして、募集を早く行うべきではないかという意見です。町である程度を条件整理しなないとなかなか参画しにくいとサウンディング調査で意見をもらっている部分もあるため、最低限サウンディング調査を段階的にを行いながら、町で整理すべきことについては、示しながら公募につなげていきたいと思っています。早く実施することは、もちろん想定しながら、考えながら進めていきたいと考えています。

事 務 局

先ほど農産物の関係の指摘がありました。昨年度、観光と合わせて産業の計画を立てています。また、現在、同時並行で農業振興ビジョンを立てています。その中で、祇園坊柿の生産の確立や特産品の開発、太田川産直市を中心に小規模農家が参画できる仕組みづくりを大きな柱にしています。また、ひろしま活力農業での青物野菜の産地化と今後の荒廃地の対策の4つを掲げています。その中の太田川産直市を中心とした小規模農家の支援については、新たに町が介入し、地域商社で指揮がとれるような体制ができないかということ、JAと一緒に考えていき、できれば地域商社へ指導を渡しながら、皆さんの知恵をもらいたいと思っています。そのためには、この太田川産直市、小規模農家についてももしっかり支援ができないか、出荷の仕組みはどうなのか、また新たなものを育てて販売できないかということ、一体となって考えていきたいと考えているため、早急に立ち上げて、計画のもとに実施していきたいと考えています。

河 本 委 員

このプランで計画が、当初この委員会を立ち上げた段階では、バラ色でいろいろなものを取り上げた計画でしたが、この計画はある程度まとまり、先が見えるようになったため、個人としてはよい計画だと思います。ただ、農業委員会として関わるのが、農地や農業者であるため、そのような面で、この産直市については、道の駅では大きな1つのベースになると思うため、それを農業者としては大いに期待していると思いますし、お年寄りが楽しみにしている1つだと思います。中本委員が言ったように、早急に実現するように取り組んでもらいたいと思います。また、この道の駅では、地域商社が1つの核になるため、地域商社は令和9年度をもって、

スタートになればすでに遅いため、早めにいろいろな事業者との交流も含めて、令和9年度をもって一斉に関係が取れるような体制整備を、地域商社にはお願いしたいと思います。現体制がそのまま移行すればよいと思うため、地域商社が絡んでいるということは町もある程度絡んでいると思うので、町民も絡めながら意見を吸い上げていってほしいと思います。そのようなかたちで将来的にも残していきたいと思うため、この計画は一斉によいスタートが切れるように期待したいと思います。

沖 段 委 員

サウンディング調査は必要だったのかなと思います。去年ヒアリングを実施されていますが、すでに以前から言われてきたようなことばかりが出ているため、この調査は必要だったのかと思います。ただ、この調査を踏まえて、基本計画ができたということだと思うため、このあたりは理解をしようとは思いますが。その中でも事業手法をPFIやDBOのどれかにしようかは、当然民間資本を活用していくため、非常によいことだと思います。これ以外の部分では、問題はないため、早くから進めていけばよかったと思います。ただ、資料3の5ページに事業手法と事業範囲が書いてありますが、設計・建設・維持管理・資金調達までも民間で行う事業手法を検討されています。そのような中で事業範囲、これは設計など建設工事の負担が町となっていますが、そのあたりがどのように事業範囲とリンクするのかということが気になります。先ほど農業ビジョンを今年策定したと聞きましたが、まだその農業ビジョンは見えていないためわかりませんが、産直市が1つの大きな柱になっていると聞きましたが、この事業範囲の中では、地域商社が実施し地域商社が負担となっていますが、あくまでも地域商社は、私は町と同じレベルだと考えています。やはり地域商社で行っていくのがよいのかどうか、最終的にこの地域商社で回していこう、民間で回していこうという考え方でよいのでしょうか。資料3の21ページですが、今後事業者の公募がありますが、それは建設業者の募集なのか、それともSPCの募集なのか教えてほしいと思います。そして、資料3の16ページです。これはJAの金融窓口機能を書いてあり、40㎡で職員が3人と書いてありますが、金融機関が町のなかで少ない状況のため、金融の窓口業、これは非常に大切だと思います。これが40㎡でできるのかどうか、私もJAの理事をさせてもらっていますが、非常に私としては不信感と言いますか、これだけの規模で足りるのかと思ってしまいます。道の駅やインターの周辺に金融機関が小さくなるということになると非常に問題になると思います。

事 務 局

まずサウンディング調査が、結果から見て必要だったのかという意見です。事務局としては、まだサウンディングを続けていく予定です。また、SPCか建設業者を公募するかについては、これはSPCを募集することになります。設計・建設、運営を一括で実施できるSPCを公募するということです。

沖 段 委 員

SCPの中に設計業者、建設業者、維持管理業者が入るとのことですか。

事 務 局

その通りです。

久 方 委 員

JAの窓口が計画に入っていると思いながら見ていましたが、40㎡3人で支店を運営するのは、いろいろ難しいと思います。

末 國 委 員	資料3の4ページで経営目標が示されています。顧客満足の向上や話題性を集めることにより、この100万人という数字が出ていると思いますが、気になったのが単価1,381円となっています。数週間前の物価上昇をみると5%ぐらいは上げることができると思います。ということは、6億円ではなく6億3,000万円程度と書くことができるのではないかと思います。高い目標ではありますが、現実に近い、説明できる数値だと考えます。
事 務 局	おっしゃるとおり、客単価を加味すると6億3,250万円程度になりますのでそれを落とし込みます。

(3) 今後の予定について

事 務 局	委員会の後のスケジュールについて、大まかに説明します。来年度事業者選定業務に入っていきますが、この委員会の後、改めて意見を踏まえて基本計画案をつくり、町民に対して、パブリックコメントを行いたいと思います。この結果を踏まえて、来年度4月の段階で、道の駅の基本計画を策定していきたいと思います。また、かたちが固まりましたら、皆さんに報告したいと思います。
-------	---

5. 閉会

以上